

# ゆとりある教育を求め 全国の教育条件を 調べる会 ニュース

2015.10.7発行

NO.41

総会と夏研の報告

冬研決定！のお知らせです。

## 調べる会・夏研 開催

調べる会夏の研究会が8月7日(金)8日(土)に大阪市たかつガーデンにおいて行われました。東京、長野、愛知、滋賀、京都、大阪、奈良、岡山、宮崎から11名が参加しました。

滋賀の特別支援学校の先生が、HPを見て参加して下さり、特別支援学校の教職員配置の状況について報告して下さいました。今まで手付かずだった特別支援学校の学級編制や教職員定数などの実態ですが、大変心強く、研究が進むことが期待されます。

また、大阪教組の小林書記長さんが参加して下さったことや、古くからの会員である岡山の赤坂さんが研究会に初参加して下さったことも感激でした。(詳細は別紙)

## 総会も、無事終わりました。

研究会後、調べる会の総会が開催され、第9年次活動報告・会計報告、第10年次活動計画案・予算案の論議が行われ、すべて承認されました。冬の研究会は1月30日・31日に埼玉で、来年春は愛知、夏は長野で行う方針をきめました。(別紙②と総会資料参照)

## 調べる会・冬研

とき：2016年 1月30日(土)31日(日)

会場：埼玉大学大宮サテライト教室

さいたま市 JR大宮駅徒歩5分

講演 世取山洋介氏(新潟大学)

教育条件整備法制の具体像についての構想

埼玉大学の高橋哲先生にお世話いただき、開催できることになりました。調べる会の10年目にふさわしい研究会となりますよう、多くの方のご参加をお待ちしています。(詳細は別紙)

## 教育のつどい in 仙台 & 調べ方交流会

8月16日から18日に仙台で行われた2015教育のつどい in 宮城の分科会で調べる会会員が2本のレポート報告を行いました。

また、8月17日夜には調べる会主催の交流会が行われました。大雨の中にも関わらず千葉、富山、宮城、秋田、福島、愛知、奈良、宮崎から10名の参加がありました。(詳細は別紙)

再度の訂正とお詫び

パンフレットNO29に  
もう一つ、誤りがありました。

右のページの最初の数字が、違っていました。

小学校の総学級数です。手違いにより、総学級数に複式学級数が加えられ、二重に複式学級数がカウントされていました。

これは、夏の研究会で、実際に各県の状況を一覧化してみても、分かったことです。そのため、関連レポート等については、急遽「訂正表」を作成して報告することになりました。

会員の皆さまには、お知らせが遅れましたこと、本当に申し訳ありません。深くお詫びいたします。

再度、**全国一覧**を作成いたしました。各県シート作成用の用紙も同封しますので、お手数ですが、再度修正していただくか、読み換えてご利用いただけますよう、お願いいたします。

# 暑い夏に 熱く学びました！

## 調べる会・夏研 開催（別紙）

調べる会夏の研究会が8月7日（金）8日（土）に大阪市たかつガーデンにおいて行われました。東京、長野、愛知、滋賀、京都、大阪、奈良、岡山、宮崎から11名が参加しました。

報告者は以下の通りです。

鈴木つや子「2015年の小中一貫校制度化の資料・見解～小中一貫ではなく少人数学級を～」

現場からの報告「滋賀の特別支援学校の教職員配置の状況」

山崎洋介「少人数学級制と教職員定数をめぐる論点整理」

橋口幽美「少人数学級と教職員配置の状況一覧」

### 山崎洋介さんの感想

報告の後で、参加者全員で各県状況シートをつくるワークをしました。自分の県の数値をシートに書き込むことによって、学級編制や教職員配置の状況がよりつかみやすくなったと思います。

個人的な感想としては、少人数学級制が重大な後退局面に入り、大幅な教職員定数の削減や学校統廃合が推進されようとしている中で、調べる会としては、教育条件整備法制のあり方についての本格的な検討に入らなければと強く思いました。

（この作業中に、数字の間違いを指摘していただき、チェック作業ともなりました。橋口）

### 鈴木つや子さんの感想

今回は「少子化と小中一貫校」という題で発表させていただきました。「少子化の今こそ、少人数学級政策を進めるべきだ。小中一貫校は人口減をもたらす。」という内容です。

多くの参加者から、その地域の状況を教えていただき、今後の調査研究にはずみがつきました。かつては、日本中どこにでも学校があり、子どもの教育が丁寧に行われていました。残念ながら、今では、「経済効率」、「人材育成」という言葉がはびこり、「子どもの教育を受ける権利」などは、隅に追いやられてしまいました。

わたしは、元小中教員です。残された人生を、次世代（子ども）、次々世代（孫）が「よりよい人生」を送れるよう、できることをしたいと考えています。

年に3回行なわれる調べる会（総会）では、多くの会員の方々と交流することができます。初めて参加された方々、毎回参加される会員の方々、それぞれに熱い思いをもって、教育を語っておられます。これからも、多くの方々が参加されるといいですね。豊富な情報と温かく適切なご意見、ありがとうございました。

## 総会も、無事終わりました。(別紙)

出席者は、東京、奈良、京都、愛知、宮崎からの7名の参加がありました。

委任状を、メールでの委任も含め18通いただきました。会員登録者の過半数に達しましたので、総会は成立しました。ご協力ありがとうございました。返信のハガキに添えられた一言をご紹介します。

### 総会返信のお葉書より (敬称略)

7日は科教協、8日は「山の上の小さな地域博物館」(自分で設立し館長を自称)の開館で出席できません。「公教育の無償性を実現する」を、そうだそうだと思いつつ、やっと“子どもの貧困と学校教育”の章まで読了しました。学校教育における「必要充足」原則を、再認識しております。

(木戸久裕)

岡山で、やっとこの問題が議論できるようになってきました。それにしても、岡山だけでも“担任が非正規”が1割にのぼります。(赤坂てる子)

3月末で鹿児島国際大学を退職しました。今後は長年運営に携わってきた「鹿児島子ども研究センター」(県内3生協と約80名の所員による民間研究団体)を中心に、研究活動をつづけます。(南新秀一)

### 研究会ご案内のお返事より 会員以外の方にもご案内しましたところ、お返事を頂きました。

少子化の中で、学校統廃合の動きが顕著になってきました。合わせて小中一貫校も。しかし、これが子どもにとって教育条件が良くなるのでしょうか?(高木義隆)

佐賀県の少人数学級をすすめるために、調べる会の資料を活用したいと思っています。鳥栖市の教育予算の大幅な改善のためにも、役に立つのではと思っています。今回は日程が合わずに参加できませんが、また次回の案内をください。(原 秀親)

## フェイスブック

### 始めました!

調べる会の活動や研究の成果、そして会員のとりくみを報告、交流するために、8月にフェイスブックページを立ち上げました。

調べる会からもどんどん発信していきたいと思えます。これからも、いろいろな方たちとの共同によって教育条件を改善していけたらと思えます。

調べる会のホームページからも入ることが出来ます。すでに、38人の方が「いいね!」してくださっているとのことです。

## 調べる会・冬研 (別紙)

### 調べる会 冬の研究会の予告

日時 2016年1月30日(土)31日(日)

場所 埼玉大学大宮サテライト教室...

内容 講演

講師 世取山洋介氏(新潟大学)

「教育条件整備法制の具体像についての構想(仮題)」

ワークショップ

「作ってみよう私の県の教育条件総括表」

自分の都道府県データを調べます。

今回は、非常勤講師問題についても解説する予定です。

研究発表と交流

\*会員内外の研究報告者を募集します。

日程など詳細が決まりましたら、ご連絡させていただきます。

会員であるかないかに関わらず、どなたでも参加いただけます。

興味のある方はぜひご参加ください。

なお、2016年5月には愛知県で、8月には長野で研究会開催予定です。

調べる会  
フェイスブックより

## 教育のつどい in 仙台 (別紙)

8月16日から18日に仙台で行われた2015教育のつどいIN宮城の分科会で調べる会会員が2本のレポート報告を行いました。

### 「少人数学級と教職員配置の状況一覧」橋口幽美(宮崎県元事務職員)

共同研究者の久保富三夫先生より、分析方法や「基礎加配」という用語についての検討が必要というご指摘を受けました。一覧表の再作成について、検討しています。

### 「平成27年度文科省予算にみる少人数学級制の後退」山崎洋介(奈良市教員)

山崎の報告は、少人数学級制をめぐる文科省と財務省の財政折衝における少人数学級制否定論と教職員定数削減論を批判したものです。

( \*内容についてはホームページの「機関誌・論文コーナー」をご覧ください。 )

## 調べ方交流会 (別紙)

「作ってみよう私の県の教育条件総括表」という小冊子を使っただけの交流会でした。

少人数学級と教職員配置状況シートに自分の県の数値を記入してもらいながら、データのもつ意味を解説して交流・論議をしました。これまでの講座とは違い、ワークショップ的に開催したことで、理解がより深まったのではないかと思います。参加者からは

「お金の使い方が見えないと県教委とたたかえない。データに強くなりたい。」

「現場で実感していることが、データに表れている。」

「他県と比べてどうかを知りたい。」などの意見が出されました。

### 後日(9月26日) こんなメールも届きました。

**Subject:** 北海道釧路のYです。

こんばんは。初めまして。

今年初めて「教育のつどい」に参加しました。

さっき、資料を整理していたところ、「各県の教育条件 調べ方交流会」のチラシが目に入りました。

釧路市支部女性部では、明日の午後、「多忙化を解消しよう」学習会を開催します。教職員の定数改善や専科、加配についても話題にしていく予定です。

しかし、正確な数字や道内、全国の状況がわからず、どこまで深められるか困っていたところでした。

そこで、チラシに載っていた「各県シート」についてお尋ねします。これは、私のようなものでも簡単に作ったり、解明できたりするものなののでしょうか？

もし、そうであれば、ぜひ、送っていただきたいのですが…。

返信お待ちしております。

残念ながら、学習会には間に合いませんでしたが、メールで資料をお送りしました。

## 意見

### H28 年度予算にかかわる文科省概算要求について

事務局長 山崎洋介

8月末に文科省の来年度予算概算要求が発表されました。教育現場が切実に望んでいるのは、学級編制標準の引き下げ（単式普通学級の30人学級化、複式学級標準改善、特別支援学級・学校標準改善）と「乗ずる数」改善（正規教諭による担任外教員の増員）による基礎定数の改善です。これを概算要求しない文科省の姿勢は、まったく腰砕けだと思います。

「アクティブ・ラーニング」「チーム学校」をお題目にして若干の加配教員や非常勤スタッフの増員を求めています。期待薄です。「アクティブ・ラーニング」の理念そのものは否定しませんが、条件整備のないままでは絵に描いた餅のようです。一斉講義式授業が一般的な大学や高校の授業改革には「授業革命」なのかもしれませんが、小中学校の教員にとってはすでに実践しようとしてきたこと。しかし、やりたいと思いつつも「教科書が終わらないから」「忙しすぎるから」「学級人数が多すぎるから」十分に実践できないというのが本音だと思います。

それよりも、安倍政権発足以来3年連続で約300名ずつ削減されている国庫加配定数「指導方法工夫改善加配教員」の動向が心配。この定数は、地方裁量「少人数学級制」実施を支えているため、各地で少人数学級制が後退することが懸念されます。

文科省のいう「チーム学校」の「チーム」のイメージは、まるで校長を監督とする高校野球チームみたい。「学校マネジメント」のイメージとして語られるキャッチコピーのようです。「チーム学校」の新たな戦力として増員を求めているスクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SS）も、正規職員として全校配置するわけではなく、文科省や教育委員会のやりたい教育をやってくれそうな学校にだけ配置する「戦略的充実」が実態。（アクティブ・ラーニングの加配教員も同様）SCもSSもALTも特別支援教育支援員も給食調理員も業務員も、学校に本当に必要な職員だということなら、栄養職員や事務職員のようにきちんと義務標準法に位置付けて国庫負担化すべきです。

基礎定数が増員されなければ、「教員の多忙化解消」「子どもに向き合う教育」は実現されないでしょう。非正規の非常勤スタッフが増えれば増えるほど、限定された勤務時間での打ち合わせの時間を必要とされることになり、教員の多忙化に拍車がかかりそうです。

財務省と同じように、文科省もグローバル人材を養成するために学力調査の結果を「教育エビデンス（論拠）」として、その費用対効果を計算しようとしているだけのようです。人格の完成をめざす教育のため、子どもの成長と発達の観点から教育政策と教育費とが考えられるべきで、そのためには現場の声をもっと誠実に聴くべきだと思います。